

ヨーンベ語動詞アクセント試論

A Tentative Tonal Analysis of Yoombe Verbs

湯川恭敏

Yasutoshi Yukawa

はじめに

ヨーンベ語(kiyóombe)というのは、コンゴ民主共和国(旧ザイール)の西端の大西洋に面する地域に話されるバントゥ系の言語であり、コンゴ語(kikongo)の一方言である。¹⁾ このkiyoóombeというのは自称で、他称はkibwaálaである。なお、コンゴ語には、一般的に認められた標準コンゴ語というものはなく、互いに差異を示すコンゴ語諸方言が話されているようである。同国バンドゥンドゥ州には Kikongo ya l'état と呼ばれる共通語が話されているが、同国のコンゴ語の中心地域の人々はそれを自らの言語とすることを拒否したと聞いている。なお、筆者は、後に、隣国であるコンゴ共和国のブラザビルで、同じくコンゴ語諸方言の一つであるラーリ語(tilaari/kilaari)を調査し、湯川(2004)でその分析結果の一部を公表した。

本論文でこの言語の表記に用いる子音字とその概略的音価は、次の如くである。ほぼ、慣用的正書法に従う。

b ([b]), d ([d]), f ([f]), g ([g]), k ([k]), kh ([kh]), l ([l]), m ([m]),
n ([n]), ny ([ɲ]), p ([p]), ph ([ph]), s ([s]), t ([t]), th ([th]),
ts ([tʃ]), v ([v]), w ([w]), y ([j]), z ([z]), m/n (子音前鼻音). ²⁾

母音字は、次の通りである。

i ([i]), e ([e]), a ([a]), o ([o]), u ([u]).

この言語においては、長母音が非常に目立ち、たとえば動詞語幹第一音節(あれば)は常に長い。

アクセントは、母音字上の´で「高」を、無印で「低」をあらわす。「高」の直後に子音前鼻音があれば、高く発音される。

この言語における人称主格・対格接(頭)辞³⁾の形は、次の通りである。

	主格	対格		主格	対格
単数1人称	ndi/N ⁴⁾	N	複数1人称	tu	tu

2人称	wu	ku	2人称	lu	lu
3人称	ka/wu/Ø	N	3人称	ba	ba

対格接(頭)辞(以下、対格接辞)は人間をあらわす場合のみあらわれうるようである。

単数1人称主格接辞Nは、ある限られた形の場合にのみあらわれ、その他の場合は ndi があらわれる。単数1人称主格・対格接辞のNは、単数3人称対格接辞のNとは異なり、直後の音を変化させたり、融合したりする。

N + b > mb, N + d > nd, N + f > mf, N + g > ng, N + k > kh,
 N + kh > kh, N + l > nd, N + m > mb, N + n > nd, N + p > ph,
 N + s > ts, N + t > th, N + ts > ts, N + v > ph/mv, N + w > ngw,
 N + y > ny/ng, N + z > nz, N + V > ndV.

なお、Vは母音をあらわす。

クラス⁵⁾主格接辞は、次の通りである。クラスは、名詞例で示す。ハイフンは、接頭辞と語幹の境界を示す。I~VI, VIIIは単数名詞のクラス、IX~XIIIは複数名詞のクラス、VII, XIVは単複の区別のないクラスである。

- | | | |
|-------|--|----------|
| I. | mu-útu 「人」, n-téékéló 「孫」, mw-áana 「子」,
bókiló 「義父母、義子」 (接頭辞ゼロ) | 単数3人称に同じ |
| II. | n-kíílá 「尾」, mú-tsénga 「さとうきび」 | wu |
| III. | di-kaáku 「猿」, dí-iso 「目」 | di |
| IV. | kí-ima 「物」, búúlú 「動物」 (接頭辞ゼロ) | ki |
| V. | n-zúungu 「鍋」, khwáala (< n-kwáala) 「ごぎ」 | yi |
| VI. | lu-díímí 「舌」, lu-záálá 「爪」 | lu |
| VII. | bw-áazi 「ハンセン氏病」 | bu |
| VIII. | kú-utu 「耳」 | ku |
| IX. | ba-átu 「人」, ba-téékéló 「孫」, bá-ana 「子」,
ba-bókiló 「義父母、義子」 cf. I. | 複数3人称に同じ |
| X. | min-kíílá 「尾」, mí-tsénga 「さとうきび」, min-zaala 「爪」
cf. II/VI. | mi |
| XI. | ma-kaáku 「猿」, méeso (< má-iso) 「目」, ma-díímí 「舌」, má-atu 「耳」
cf. III/VI/VIII. | ma |
| XII. | bí-ima 「物」, bi-búúlú 「動物」 cf. IV. | bi |
| XIII. | zin-zúungu 「鍋」, zi-khwáala (< zin-kwáala) 「ごぎ」 cf. V. | zi |

XIV. tu-fííná「膿」, tí-iyá「火」

tu

この他に、対格接辞の一種として、再帰接辞⁶⁾がある。なお、各クラス毎に、対格接尾辞があり、動詞活用形の末尾にあらわれうが、その形は、

I. wo, II. wo, III. dyo, IV. kyo, V. yo, VI. lo, VII. bo, VIII. ko,

IX. bo, X. myo, XI. mo, XII. byo, XIII. zo, XIV. to.

である。これらは常に高くつくので、本論文では、これ以降記述を省略する。

wumémonadyó「彼はそれ(クラスIII)を見た(wumémona)」.

主格接辞をSであらわし、対格接辞をOであらわす。

この言語の動詞自体は元来のアクセントの型(A型、B型⁷⁾と呼ぶ)の対立を保存している。

§ 1. 不定形

この言語の動詞にも、不定形と呼んでよい形(「~すること」の意)がある。

不定形は、

語幹 + a

(ku +) 対格接辞 + 語幹 + a

という構造を有する。元来は、ku + (対格接辞 +) 語幹 + aという構造であったと思われるが、多くの場合にkuが脱落したようである。ただし、語幹が母音ではじまる場合は、対格接辞があらわれないと、不定形接頭辞kuがkwであられる。また、対格接辞があらわれても、それが単数2人称のkuである場合は、前に不定形接頭辞kuがあらわれることはない(この点は、常にいえるので、以下記述を省略する)。アクセントは、次のように表示する。Cは(子音前鼻音+)子音(+半母音)を、Vは母音をあらわし、Xは任意の音素列を示す。

A型: X, (kú)ÓX.

B型: XVCa, (kú)ÓCVX.

bwá「倒れる、落ちる」, búúlá「たたく」, vóóndá「殺す」, bóókííá「呼ぶ」;
(kú)bábúúlá「彼らをたたく」, (kú)bávóóndá, (kú)bábóókííá. (以上A型)

keéla「悪口をいう」, kaámba「いう、知らせる」, teemína「叱る」,

siimbidííla「支える」, kwiíza(< ku+íza)「来る」, kweénda(< ku+énda)「行く」;

(kú)bákéela「彼らの悪口をいう」, (kú)bákáamba「彼らに知らせる」,

(kú)bátéemina.

(以上B型)

なお、確認もれだが、単数1人称対格接辞があらわれる場合、常に前に不定形接頭辞kuがあらわれるのではないと思われる。

§ 2. 直説法形

直説法形に用いられる語尾としては、a, anga, idi, i/aがある。ここでは、語尾別に見てゆく。

§ 2-1. 語尾aを用いる形

まず、不定形と同じ語尾を用いる形を見る。

§ 2-1-1. 過去形

一昨日あるいはそれ以前の過去のある時点において行われた行為をあらわす形は、

主格接辞 + 語幹 + a および

主格接辞 + (ku +) 対格接辞 + 語幹 + a

という構造を有する。単数1人称主格接辞は ndi、単数3人称主格接辞はwuもしくはkaである。アクセントは、次の如く表示しうる。

A型: $\acute{S}X$, $S(k\acute{u})\acute{O}X$.

B型: $SX\acute{V}Ca$, $S(k\acute{u})\acute{O}C\acute{V}X$.

bábwa 「彼らは倒れた」, bábuula 「彼らはたたいた」, bávoonda, bábookila;

ba(kú)túbuula 「彼らは私たちをたたいた」, ba(kú)túvoonda, ba(kú)túbookila.

(以上A型)

bakééla 「彼らは悪口をいった」, bakaámba, bateemína, basiimbidíla, bakwííza,

bakweénda;

ba(kú)túkééla 「彼らは私たちの悪口をいった」, ba(kú)túkámba,

ba(kú)tutéemina.

(以上B型)

アクセント表示で高く表示されている単数1人称もしくは3人称の対格接辞が子音前鼻音であられ、kuがあらわれない場合に、Nは音節を構成しないので、主格接辞が高くなる。この形の場合、単数1人称対格接辞は、前にkuを伴わずにあらわれうる。

bámbookila 「彼らは私(彼)を呼んだ」.

なお、高い音節の直後のCVVX#は、音声的には、どちらかという、CVVX#と聞こえることが多い。一種の「遅下がり現象」と考えられる。

bábuula [bábúula].

cf. bábuulakó [bábuulakó] 「彼らはたたかなかった」 (§ 2-5 参照)

bakútúbuula [bakútúúula] 「彼らはあなたをたたいた」.

従って、対格接辞があらわれる場合、A型B型の差異は聞き取りにくい。

§ 2-1-2. たった今の過去形

たった今行われた行為をあらわす形は、

主格接辞 + me + 語幹 + a および

主格接辞 + me + (ku +) 対格接辞 + 語幹 + a

という構造を有する。単数1人称主格接辞はN (N+me > mbe)、単数3人称主格接辞は wu, kaもしくは∅である。アクセントは、次の如く表示しうる。

A型: SméX, Smé(kú)ÓY.

B型: SmeXVCa, Smé(kú)ÓCVX.

bamébwá 「彼らは倒れた」, bamébuula 「彼らはたたいた」, bamévoonda,

bamébookila;

bamé(kú)túbúúulá 「彼らは私たちがたたいた」, bamé(kú)túvóondá,

bamé(kú)túbóókílá. (以上A型)

bamekéela 「彼らは悪口をいった」, bamekaámba, bameteemína, bamesiimbidíla,

bamekwííza, bamekweénda;

bamé(kú)túkéela 「彼らは私たちの悪口をいった」, bamé(kú)túkáamba,

bamé(kú)tutéemina. (以上B型)

なお、この形の場合、確認もれだが、単数1人称対格接辞があらわれる場合、常に前に kuがあらわれるのではないかと思われる。

§ 2-1-3. 現在進行形(1)

今行われている行為をあらわす形は、

主格接辞 + a + ta + 語幹 + a および

主格接辞 + a + ta + (ku +) 対格接辞 + 語幹 + a

という構造を有する。主格接辞+aの形は、次の如くである。

単数1人称 ndya, 2人称 wa, 3人称(=クラスI) ka,

複数1人称 twa, 2人称 lwa, 3人称(=クラスIX) ba,

クラスII wa, III dya, IV kya, V ya, VI lwa, VII bwa, VIII kwa,
X mya, XI ma, XII bya, XIII zya, XIV twa.

アクセントは、次の如く表示しうる。

A型: Sátaǎ́, Sáta(kú)Óǎ́.

B型: SátaXǎ́Ca, Sáta(ku)OXǎ́Ca.

bátabúúlá 「彼らはたたいている」, bátavóóndá, bátabóókíílá;

báta(kú)túbúúlá 「彼らは私たちをたたいた」, báta(kú)túvóóndá,

báta(kú)túbóókíílá. (以上A型)

bátakeéla 「彼らは悪口をいっている」, bátakaámba, bátateemína,

bátasiimbidííla;

báta(ku)tukeéla 「彼らは私たちの悪口をいっている」, báta(ku)tukaámba,

báta(ku)tuteemína. (以上B型)

なお、この形の場合、単数1人称対格接辞があらわれる場合、前にkuがあらわれなくてもよい。

báta(ku)kheéla 「彼らは私の悪口をいっている」.

§ 2—1—4. 今日の未来形

その日のうちに行われる行為をあらわす形は、

ma + 主格接辞 + 語幹 + a および

ma + 主格接辞 + (ku +) 対格接辞 + 語幹 + a

という構造を有する。単数1人称主格接辞は ndi、単数3人称主格接辞はkaである。アクセントは、次の如く表示しうる。

A型: máSǎ́, máS(ku)Óǎ́.

B型: máSXǎ́Ca, máS(ku)OXǎ́Ca.

mábabwá 「彼らは倒れる」, mábabúúlá 「彼らはたたく」, mábavóóndá,

mábabóókíílá;

mába(ku)tubúúlá 「彼らは私たちをたたく」, mába(ku)túvóóndá,

mába(ku)tubóókíílá. (以上A型)

mábakeéla 「彼らは悪口をいう」, mábakaámba, mábateemína, mábasiimbidííla,

mábiíza (< má+ba+ííza), mábeénda (< má+ba+énda);

mába(ku)tukeéla 「彼らは私たちの悪口をいう」, mába(ku)tukaámba,

mába(ku)tuteemína. (以上B型)

面白いことに、mábííza, mábeénda においてkw(く ku)があらわれない。しかし、確認もれだが、単数1人称対格接辞があらわれる場合、常に前にkuがあらわれるのではないかと思われる。

§ 2—1—5. 未来形

翌日もしくはそれ以降の時点において行われる行為をあらわす形は、

主格接辞 + a + la + 語幹 + a および

主格接辞 + a + la + (ku +) 対格接辞 + 語幹 + a

という構造を有する。主格接辞+aの形については、§ 2—1—3 参照。

A型: SaláX, Salá(kú)ÓX.

B型: SaláCVX, Salá(kú)ÓCVX.

balábwa 「彼らは倒れる」, balábuula 「彼らはたたく」, balávoonda,
balábookila;

balá(kú)túbuula 「彼らは私たちをたたく」, balá(kú)túvoonda,

balá(kú)túbookila. (以上A型)

balákéela 「彼らは悪口をいう」, balákáamba, baláteemina, balásímbidila,
balákwíiza, balákwéenda;

balá(kú)túkéela 「彼らは私たちの悪口をいう」, balá(kú)túkáamba,

balá(kú)tútéemina. (以上B型)

確認もれだが、単数1人称対格接辞があらわれる場合、常に前にkuがあらわれるのではないかと思われる。

§ 2—1—6. 過去否定形

過去のある時点においてある行為が行われなかったことをあらわす形は、

主格接辞 + ka + di + 語幹 + a および

主格接辞 + ka + di + (ku +) 対格接辞 + 語幹 + a

という構造を有する。単数1人称主格接辞は ndi、単数3人称主格接辞はwuもしくはkaである。アクセントは、次の如く表示する。

A型: ŚkadíX, Śkadi(kú)ÓX.

B型: ŚkadiCVX, Śkadi(kú)ÓCVX.

bákadíbwa 「彼らは倒れなかった」, bákadíbuula 「彼らはたたかなかった」,
bákadívoonda, bákadíbookila;

bákadi(kú)túbuula 「彼らは私たちをたたかなかった」, bákadi(kú)túvoonda,
bákadi(kú)túbookila. (以上A型)

bákadikéela 「彼らは悪口をいわなかった」, bákadikáamba, bákaditéemina,
bákadisímbidila, bákadikwíiza, bákadikwéenda;

bákadi(kú)túkéela 「彼らは私たちの悪口をいわなかった」, bákadi(kú)túkáamba,
bákadi(kú)tutéemina. (以上B型)

3つの表示式でdiを低いとしている点、確かに多くの場合低く聞こえるが、若干不確かさが残る。

§ 2—1—7. 現在・未来否定形

現在あるいは未来においてある行為が行われなことをあらわす形は、

主格接辞 + ka + di + P + 語幹 + a および

主格接辞 + ka + di + P + (ku +) 対格接辞 + 語幹 + a

という構造を有する。単数1人称主格接辞は ndi、単数3人称主格接辞はwuもしくはkaである。P (Possessiveをこう略した) であらわしているのは、所有をあらわす形の、被所有名詞がkuを接頭辞とする場合のもので、次のような形であられる。

単数1人称 kwáme, 2人称 kwáku, 3人称 (= クラスI) kwándi,

複数1人称 kwéto, 2人称 kwéno, 3人称 (= クラスIX) kwáwu.

クラスII~VIII, X~XIV に対応する形は、すべて単数3人称と同じkwándiである。

次に、súúmbá「買う」を例にとって示す。

ndíkadikwámesúúmbá「私は買わない」;

wúkadikwákusúúmbá「あなたは買わない」;

wúkadikwándisúúmbá / kákadikwándisúúmbá「彼は買わない」;

túkadikwéto súúmbá「私たちは買わない」;

lúkadikwéno súúmbá「あなたがたは買わない」;

bákadikwáwusúúmbá「彼らは買わない」.

アクセントは、次の如く表示しうる。kwáme, etc. は単に Pであらわす。

A型: ŚkadiPǺ, ŚkadiP(kú)ÓǺ.

B型: ŚkadiPCǺ, ŚkadiP(kú)ÓCǺ.

bákadikwáwubwá 「彼らは倒れない」, bákadikwáwubúúlá 「彼らはたたかない」,
 bákadikwáwuvóóndá, bákadikwáwubóókííá;
 bákadikwáwu(kú) túbúúlá 「彼らは私たちをたたかない」, bákadikwáwu(kú) túbóóndá,
 bákadikwáwu(kú) túbóókííá. (以上A型)
 bákadikwáwukéela 「彼らは悪口をいわない」, bákadikwáwukáamba,
 bákadikwáwutéemina;
 bákadikwáwu(kú) túkéela 「彼らは私たちの悪口をいわない」,
 bákadikwáwu(kú) túkáamba, bákadikwáwu(kú) tutéemina. (以上B型)

§ 2-2. 語尾angaを用いる形

次に、angaを語尾とするものを見る。angaを用いるものは、この言語では、習慣的行為をあらわす形である。

§ 2-2-1. 現在習慣形

よく行われる行為をあらわす形は、

主格接辞 + 語幹 + anga および

主格接辞 + (ku +) 対格接辞 + 語幹 + anga

という構造を有する。単数1人称主格接辞は ndi、単数3人称主格接辞はwuもしくはkaである。アクセントは、次の如く表示しうる。

A型: ŚX, S(kú)Ó́X.

B型: ŚX, S(kú)Ó́X.

babúúlángá 「彼らはたたく」, bavóóndángá, babóókííángá;

ba(kú) túbúúlángá 「彼らは私たちをたたく」, ba(kú) túbóóndángá,

ba(kú) túbóókííángá. (以上A型)

bakééíángá 「彼らは悪口をいった」, bakáámbángá, batéémínángá, bakwíízángá,

bakwééndángá;

ba(kú) túkééíángá 「彼らは私たちの悪口をいう」, ba(kú) túkáámbángá,

ba(kú) tutéémínángá. (以上B型)

§ 2-2-2. 現在習慣否定形

§ 2-2-1の形に対応する否定形は、

主格接辞 + ka + di + P + 語幹 + anga および

主格接辞 + ka + di + P + (ku +) 対格接辞 + 語幹 + anga

という構造を有する。単数1人称主格接辞は ndi、単数3人称主格接辞はwuもしくはkaである。Pについては、§2-1-8参照。アクセントは、次の如く表示しうる。

A型: *ŚkadiPĀ́, ŚkadiP(kú)ÓĀ́.*

B型: *ŚkadiPCVĀ́, ŚkadiP(kú)ÓCVĀ́.*

bákadikwáwubúú́lángá 「彼らはたたかない」, *bákadikwáwuvóóndángá,*

bákadikwáwubóókí́lángá;

bákadikwáwu(kú)túbúú́lángá 「彼らは私たちをたたかない」,

bákadikwáwu(kú)túvóóndángá, bákadikwáwu(kú)túbóókí́lángá. (以上A型)

bákadikwáwukéelanga 「彼らは悪口をいわない」, *bákadikwáwukáambanga,*

bákadikwáwutéeminanga, bákadikwáwukwíizanga, bákadikwáwukwéendanga;

bákadikwáwu(kú)túkéelanga 「彼らは私たちの悪口をいわない」,

bákadikwáwu(kú)túkáambanga, bákadikwáwu(kú)tutéeminanga. (以上B型)

対格接辞があらわれる場合のアクセントは、データ不足のため、推定である。

§2-3. 語尾idiを用いる形

語尾+idiの形には、さまざまな例外がある。語尾+idiの形は、アクセント表示なしで示す。(なお、この言語では、iの直前のlはdになる。)

(1) 語幹がCaaCという構造の場合、CeeCiとなる。

vwáátá 「着る」 → *vweeti*

saána 「髪をとかす」 → *seeni*

kaána 「結ぶ、覆う」 → *keengi*

váána 「与える」 → *veeni*

(2) 語幹がil/ul/ululで延長されている場合、それがとれてidi/udi/udidiがつく。

yoobíla 「泳ぐ」 → *yoobidi*

yuundúla 「育てる」 → *yuundudi*

váángúílúla 「つぎをあてる」 → *vaangudidi*

(3) 語幹がalで延長されている場合、eがつく。

ziimbála 「間違える」 → *ziimbale*

(4) 語幹がanで延長されている場合、eがつく。

zúúngána 「目まいがする」 → zuungane

(5) 語幹がamで延長されている場合、ene がつく。

diingáma 「なだめる」 → diingamene

(6) 語幹がun/in で延長されている場合、i がつく。

túúkúna 「伸びをする」 → tuukuni

leeminína 「扇ぐ」 → leeminini

(7) 語幹末子音が鼻音であると、ini がつく。

miína 「飲み込む」 → miinini

yuúma 「乾く」 → yuumini

(8) 語幹が母音+sで延長されている場合、i がつく。

bíímísá 「出す」 → biimisi

(9) 鼻音で終わる語幹がik/uk で延長されている場合、ini がつく。

yaaníka 「干す」 → yaanikini

vúúmúká 「息をする」 → vuumukini

その他にも、さまざまな例外がある。

móóná 「見る」 → mweeni

nwá 「飲む」 → nwiini

wá 「聞く」 → wiilu

kweénda 「行く」 → yeele/yeedi/

以下に、実例として用いる動詞の語幹+idiの形をあげる。

búúlá → buudidi, vóóná → voondidi, bóókíla → bookidi;

keéla → keedidi, kaámba → keembi, teemína → teemini,

kwiíza → yiizidi, kweénda → yeele/yeedi.

§ 2—3—1. 昨日の過去形

昨日のある時点において行われた行為をあらわす形は、

主格接辞 + 語幹 + idi および

主格接辞 + (ku +) 対格接辞 + 語幹 + idi

という構造を有する。単数1人称主格接辞は ndi、単数3人称主格接辞はwuもしくはkaである。アクセントは、次の如く表示する。

A型: ŚX, S(kú)ÓX.

B型: SXVdi, S(ku)OXVdi.

bábúúdídí 「彼らはたたいた」, bávóóndídí, bábóókídí;

ba(kú)túbúúdídí 「彼らは私たちをたたいた」, ba(kú)túvóóndídí,

ba(kú)túbóókídí. (以上A型)

bakeedídi 「彼らは悪口をいった」, bakeémbi, bateemíni, bayiizídi, bayééle;

ba(ku)tukeedídi 「彼らは私たちの悪口をいった」, ba(ku)tukeémbi,

ba(ku)tuteemíni. (以上B型)

§ 2—3—2. 今日の過去形

その日に行われた行為をあらわす形は、

主格接辞 + 語幹 + idi および

主格接辞 + (ku +) 対格接辞 + 語幹 + idi

という構造を有する。単数1人称主格接辞は、対格接辞があらわれなければ N、あらわれれば ndi、単数3人称主格接辞はwu, kaもしくは∅である。アクセントは、次の如く表示しうる。

A型: SX, S(kú)OX.

B型: SCVX, S(ku)OCVX.

bábuudidi 「彼らはたたいた」, bávoondidi, bábookidi;

ba(kú)túbuudidi 「彼らは私たちをたたいた」, ba(kú)túvoondidi,

ba(kú)túbookidi. (以上A型)

bakéedidi 「彼らは悪口をいった」, bakémbi, batéemini, bayiizidi, bayééle;

ba(ku)tukéedidi 「彼らは私たちの悪口をいった」, ba(ku)tukémbi,

ba(ku)tutéemini. (以上B型)

なお、単数1人称主格接辞がNであられる場合、「はじめに」に述べたように、

phóondidi (< N+voondidi) 「私は殺した」,

khéelele (< N+kéedidi) 「私は悪口をいった」,

théemini (< N+téemini) 「私は叱った」,

ndíizidi (< N+yíizidi) 「私は来た」

のようになる。A型においては、'は語幹冒頭音節にうつる。同じことは、単数3人称主格接辞が∅であられる場合にもいえる。

§ 2-4. 語尾i/a を用いる形—現在進行形(2)

ここに語尾i/a というのは、語幹がCVVCの場合にi(直前のlはdになる)、それより長いとaとなる語尾である。kwiíza, kweéndaの語幹ti/aは、yiizi, yeendiである。

この語尾を有する形は、(§ 2-5で触れる、今見る形に対応する否定形を除けば、) 1つだけある。

§ 2-1-3に見た形と同様の意味をあらわし、より多く用いられるらしい形は、

主格接辞 + lembu + 語幹 + i/a および

主格接辞 + lembu + (ku +) 対格接辞 + 語幹 + i/a

という構造を有する。単数1人称主格接辞はndi、単数3人称主格接辞はwuもしくはkaである。アクセントは、次の如く表示しうる。

A型: SlémbúX, Slémbu(kú)ÓX.

B型: SlémbuCVX, Slémbu(kú)ÓCVX.

balémbúbuudi「彼らはたたいている」, balémbúvoondi, balémbúbookila;

balémbu(kú)túbuudi「彼らは私たちがたたいている」, balémbu(kú)túvoondi,

balémbu(kú)túbookila. (以上A型)

balémbukéedi「彼らは悪口をいっている」, balémbukáambi, balémbutéemina,

balémbuyíizi, balémbuyéendi;

balémbu(kú)túkéedi「彼らは私たちの悪口をいっている」, balémbu(kú)túkáambi,

balémbu(kú)tútéemina. (以上B型)

§ 2-5. 各種否定形

§ 2-1-6、§ 2-1-7および§ 2-2-2に見た3つの否定形以外の肯定形の末尾に高いkoをつけると、対応する否定形となる。一部の例をあげる。

bábuulakó「彼らはたたかなかった」. cf. § 2-1-1.

babúúlangákó「彼らはたたかない」. cf. § 2-2-1.

bábúúdídíké「彼らはたたかなかった」. cf. § 2-3-1.

balémbúbuudikó「彼らはたたいていない」. cf. § 2-4.

§ 3. 命令・禁止形

次に、命令や禁止に用いられる形を見る。

§ 3-1. 命令形

相手が単数の場合と複数の場合で、命令に用いる形が異なる。

§ 3-1-1. 対単数命令形

相手が単数の場合の命令形は、

語幹 + a および

対格接辞 + 語幹 + i

という構造を有し、アクセントは次のように表示しうる。

A型: \acute{X} , O \acute{X} .

B型: X \acute{V} Ca, OC \acute{V} X.

búúlá 「たたけ」, vóóndá, bóókílá;

tubúúdí 「私たちをたたけ」, tuvóóndí, tubóókídí. (以上A型)

keéla 「悪口をいえ」, kaámba, teemína, yiíza, yeénda;

tukéedi 「私たちの悪口をいえ」, tukáambi, tutéemini. (以上B型)

対格接辞の前にkuがあらわれうるか否かは、データ不足であるが、少なくとも、単数1人称対格接辞の前にはあらわれうる。

(ku)mbóókídí 「私を呼べ」.

§ 3-1-2. 対複数命令形

相手が複数の場合の命令形は、

主格接辞 + (e +) (対格接辞 +) 語幹 + i

という構造を有する。この場合の主格接辞は、もちろん複数2人称のそれである。アクセントは次のように表示しうる。

A型: $\acute{S}X$, SÓ \acute{X} ; Sé \acute{X} , SeÓ \acute{X} .

B型: SC \acute{V} X, SÓC \acute{V} X; SeC \acute{V} X, SeÓC \acute{V} X.

lúbuudi (= lwebuudi. 以下同様) 「(君たち)たたけ」, lúvoondi, lúbookidi;

lubábuudi 「彼らをたたけ」, lubávoondi, lubábookidi. (以上A型)

lukéedi 「悪口をいえ」, lukáambi, lutéemini, luyízi, luyéendi;

lubákéedi 「彼らの悪口をいえ」, lubákaambi, lubátéemini. (以上B型)

対格接辞の前にkuがあらわれうるか否かは、調査もれである。

§ 3-2. 禁止形

禁止する場合の形は、

ka + di + 語幹 + a および

ka + di + (ku +) 対格接辞 + 語幹 + a

という構造を有し、アクセントは次のように表示しうる。

A型: kadíX, kadí(kú)ÓX.

B型: kadíC'VX, kadí(kú)ÓC'VX.

kadíbuula 「たたくな」, kadívoonda, kadíbookila;

kadí(kú)túbuula 「私たちをたたくな」, kadí(kú)túvoonda, kadí(kú)túbookila.

(以上A型)

kadíkéeela 「悪口をいうな」, kadíkáamba, kadítéemina, kadíkwíza,

kadíkwéenda;

kadí(kú)túkéeela 「私たちの悪口をいうな」, kadí(kú)túkáamba,

kadí(kú)túléemina.

(以上B型)

なお、§ 3-1-1/2に見た形のあとに高いkoを続けても、禁止の意味をあらわしうる。

búúlákó 「たたくな」;

yíízakó 「来るな」.

§ 4. 接続法形

§ 3-1-2に見た形は、実は、バントゥ諸語研究でよく「接続法形」と呼ばれるもので、「～が～するように」と訳せば何となく意味が通じるものである。接続法形一般は、当然のことながら、主格接辞が複数2人称に限られるわけではない。主格接辞+eの形についてはデータ不足であるが、§ 2-1-3に見た主格接辞+aの形の母音をeに代えたものはずである。

bííká bábuudi = bííká bébuudi 「彼らにたたかせておけ」

(< bííká 「させておく」),

bííká kayéendi = bííká keyéendi 「彼に行かせろ」,

tuyéendi = tweyéendi 「行こう」.

yáandi wukéembi ndyeyízi

「彼(yáandi)は私に来る(< kwííza)ようにいっ(< kaámba)た」

lit. 「彼は私が来るようにいった」

§ 5. 連体修飾形

次に、動詞が後続して名詞を修飾する場合の形を見る。

この言語においては、こうした形は直説法形と同じものが用いられるようである。ただし、主格接辞ではじまらない形 (cf. § 2-1-4) は用いられないようである。また、単数3人称 (= クラスI) 主格接辞としてkaが用いられることはないようである。

baátu batúbookila 「私たちを呼んだ人々」.	cf. 2-1-1.
baátu bamétúbóókílá 「私たちを呼んだ人々」.	cf. 2-1-2.
baátu bátatúbóókílá 「私たちを呼んでいる人々」.	cf. 2-1-3.
baátu balátúbookila 「私たちを呼ぶ人々」.	cf. 2-1-5.
baátu bákaditúbookila 「私たちを呼ばなかった人々」.	cf. 2-1-6.
baátu bákadikwawutúbóókílá 「私たちを呼ばない人々」.	cf. 2-1-7.
baátu batúbóókílangá 「私たちを呼ぶ人々」.	cf. 2-2-1.
baátu bákadikwawutúbóókílangá 「私たちを呼ばない人々」.	cf. 2-2-2.
baátu batúbóókídí 「私たちを呼んだ人々」.	cf. 2-3-1.
baátu batúbookidi 「私たちを呼んだ人々」.	cf. 2-3-2.
baátu balémbutúbookila 「私たちを呼んでいる人々」.	cf. 2-4.

被修飾名詞が動詞のあらわす動作の主体をあらわさない場合も同様である。ただし、主格接辞は、被修飾名詞のクラスに対応するのではなく、動作の主体に対応する。

baátu túbookila 「私たちが呼んだ人々」.	cf. 2-1-1.
------------------------------	------------

§ 6. 目的形

「～しに」といったことをあらわす形があり、

mu + 語幹 + a および

mu + ku + 対格接辞 + 語幹 + a

という構造を有する。対格接辞があらわれ、kuがあらわれない形は採録されていない。アクセントは次のように表示しうる。

A型: múX, múkúÓX.

B型: múC'VX, múkúÓC'VX.

múbookila 「呼びに」;

múkúbookila 「私（彼）を呼びに」. (以上A型)

mútéemina 「叱りに」;

múkúbatéemina 「彼らを叱りに」. (以上B型)

§ 7. 目的語が後続する場合

§ 1に見た不定形でB型のXVCaというアクセントは、あとに目的語が続くと、CVX にかわる。

kéela muútu 「人の悪口をいうこと」.

しかし、すべてのXVCaが変わるかという、そうでもない。

keéla muútu 「人の悪口をいえ」. cf. § 3-1-1.

どの形のXVCaがCVX になるかについては、これ以外は調査もれである。

これ以外には、目的語が続くか否かでアクセントが異なるケースは認められなかった。

おわりに

以上は、収集したデータに基づく、現時点でできる限りの分析である。こうした動詞アクセントがどのように決定されているのか、その決定のされ方がどの程度に規則的であるかといった検討は省略する。動詞アクセントとしてはかなり単純といえるが、§ 7に述べたことからいって、完全に規則的に決定されているとはいえない。すなわち、不定形でB型のXVCaが、目的語が続けば「規則的に」CVX になるという事実は指摘できても、どうしてそうなるのかを合理的に説明しうる仮定は思い浮かばない。しかも、命令形はそうはならないのであって、そもそも「音韻的規則」とはいえないのである。

この言語を、湯川(2004)で扱ったコンゴ語のもう一つの方方言ラーリ語と比較すると、確かに似た点はあるが、かなり違っている。コンゴ語といっても、最西端に話されるヨーンベ語と中央部北端のラーリ語でこんなに違うのか、と思うほどである。

参考文献

- 湯川恭敏: 「ラーリ語動詞アクセント試論」 『ありあけ 熊本大学言語学論集』 3,
pp. 43-76. 2004. 2.

注

1) この言語の調査は、筆者を研究代表者とする文部省科学研究費補助金によるバントゥ諸語調査の一環として、1989年度にコンゴ民主共和国（当時はザイール）の首都キンシャサの Centre de Recherche en Sciences Humaines で行った。この言語のインフォーマントは、1952年にMuandaに生まれ、当時同研究所のタイピストであったNgoma Dikaka氏である。両親ともヨーンベ族である。調査は公用語であるフランス語で行った。同研究所の研究者 Bokongo Nganza 氏もこの調査に同席した。

この調査を可能にしてくれた、同国の Département de l'Enseignement Supérieure et Universitaire et de la Recherche Scientifiqueおよび上記研究所の人々に感謝する。

2) w/y は、半母音としても用いられる。なお、nyで表記した音は、半母音y を含むものではない。

子音前鼻音は、次の子音と同じ位置で閉鎖を形成する鼻音で、同一音素と考えるべきであるが、唇子音の前でm、その他でn で表記する。

3) 動詞のあらゆる行為の主体たる人称もしくは主体をあらゆる名詞のクラスに呼応して音形交替する部分を主格接辞、行為の対象たる人称もしくは対象をあらゆる名詞のクラスに呼応して音形交替する部分を対格接（頭）辞と呼ぶことにする。人称主格接辞とクラス主格接辞を分けてあげているが、本質的には同種のものである。

4) N は子音前鼻音を示す。

5) 「クラス」というのは、印欧語等に見られる「性」に似た名詞の下位範疇であるが、名詞のあらゆるものの自然的性には関係がなく、かつ、「性」よりずっと数が多い。

6) 行為の主体が何であっても、形は不変である。

7) A型というのは、バントゥ祖語の段階で語幹第一音節の高かった動詞の系統をひくもの、B型というのは、バントゥ祖語の段階で語幹第一音節を含めて低く平らであった動詞の系統をひくものである。